

令和2年度 第1回・第2回 市政モ二夕一会議報告書



新居浜市消防防災合同庁舎

新居浜市 企画部 秘書広報課
令和2年12月

(事業の目的)

新居浜市では、市政に関する市民の皆さんの意見をお聴きし、市政運営の参考とするために、市政モニター制度を設けています。

今回の市政モニター会議は、参加希望いただきました市政モニターの皆さんに、市の施設見学や職員からの説明を通して市政への関心を高めていただくことを目的に実施しました。

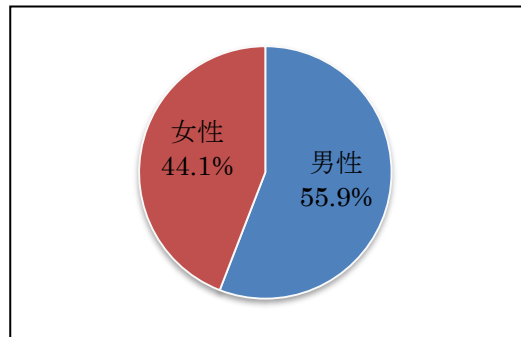
(日 程)

第1回会議	令和2年11月12日(木)	13:30 ~ 16:15
第2回会議	平成2年11月25日(水)	9:00 ~ 11:45

(参加者の状況)

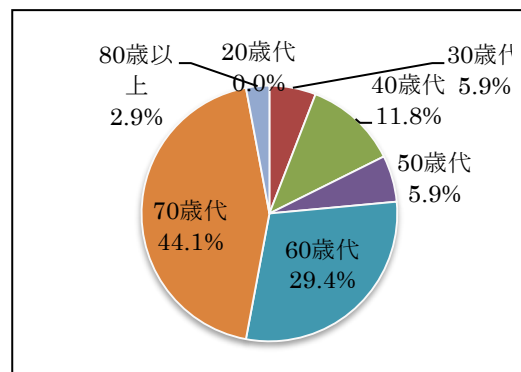
<性別>

	人数	割合
男性	19人	55.9%
女性	15人	44.1%
合計	34人	100.0%



<年代別>

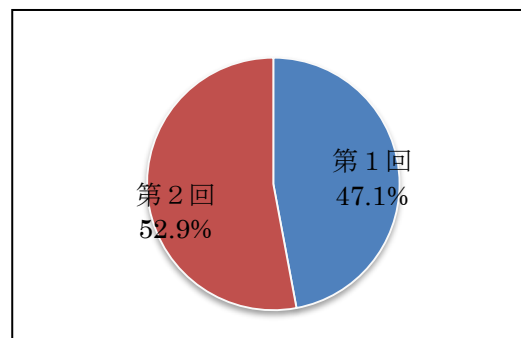
	人数	割合
20歳代	0人	0.0%
30歳代	2人	5.9%
40歳代	4人	11.8%
50歳代	2人	5.9%
60歳代	10人	29.4%
70歳代	15人	44.1%
80歳以上	1人	2.9%
合計	34人	100.0%



※年齢は令和2年4月1日時点

<参加日別>

	人数	割合
第1回	16人	47.1%
第2回	18人	52.9%
合計	34人	100.0%



※数値は、単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は一致しない場合があります。

(見学先及び内容)

新居浜市消防防災合同庁舎

(1) 施設概要説明

令和2年春に完成・開庁した新居浜市消防防災合同庁舎について、消防総務課長より施設の概要説明を受けました。

【建物概要】

- ❖建物構造 … 鉄筋コンクリート造・基礎免震構造
- ❖階数 … 地上6階 地下1階
- ❖主な設備 … 自家発電による継続した電力確保、太陽光発電、共水利用、LED照明
人感センサーによる節電

(2) 危機管理課より説明 「大切ないのちを守るために」

危機管理課職員より、災害への備えとして自分たちにできることや市の取り組み等について、説明を受けました。

❖自助・共助・公助

防災対策の三要素である、自助（一人ひとりが自分の命を守る）・共助（地域住民等が連携してみんなで守る）・公助（行政機関が守る）が互いに連携し、一体となることで、被害を最小限にできるとともに、早期の復旧・復興につながる。

❖南海トラフ巨大地震の被害想定（新居浜市全体）

建物 … 全壊 35,169 棟（45%）、半壊 12,864 棟（16%） ※建物の 61%が全半壊と想定
死者数 … 1,841 人（原因：建物倒壊 43%、家具転倒 3%、火災 29%、津波 25%）

❖南海トラフ巨大自身から命を守る効果的な防災対策

①建物の耐震性の強化 ②家具転倒・落下防止対策の強化 ③津波避難の迅速化
→3つの対策を全て実施すると、死者数は7分の1に減少（1,841人→262人）

<新居浜市の取り組み>

家具転倒防止等推進事業、木造住宅耐震診断・耐震改修事業、津波ハザードマップ作成

❖備蓄品の例

飲料水（1人1日30が目安）、非常食（レトルト食品・缶詰等）、トイレ（凝固剤や袋）、生活用品、その他（カセットコンロ等）、応急医薬品（服用薬・お薬手帳のコピー）、燃料など

❖情報入手の手段

スマホアプリ「新居浜いんふお」、防災ラジオ（3,000円/台で販売・緊急時に自動的にお知らせ）



防災ラジオ



(3) 施設見学① 消防防災合同庁舎【2～5階】

消防防災合同庁舎の危機管理エリア（5階 災害対策本部室、情報処理室等）及び消防エリア（1～3階 女性職員専用仮眠室・浴室、更衣室、トレーニング室、北消防署、通信指令室、食堂・厚生室、車庫上部吹き抜けホイスト等）を見学、担当職員の説明を受けました。



(4) 施設見学② 防災センター【1～2階】

防災センター2階シアタールームにて市の災害特性等を学ぶガイダンスを視聴後、1階防災学習ゾーンにて災害疑似体験（災害体験・煙避難体験・通報体験・消火体験）を行い、災害の恐ろしさや身の守り方を学習しました。また、「災害への備えを学ぶ」展示コーナーにて備蓄品や非常持出品についての説明を受けました。



(5) 質疑応答

今回の施設見学の内容全般に関する質疑応答を行いました。

※いただいた質問・意見（ご意見の一部を要約しています）

質 問	回 答
<p>「避難場所」と「避難所」の違いとは何か。</p> <p>最近では自治会館等も避難場所とされているが、「避難場所」と「避難所」の名称が似ていて混同しやすく、わかりにくいところがある。</p>	<p>公園などの緊急時に身を守るため一時的に避難する場所を「避難場所」、小学校や公民館など長期的なものを含めて生活をしていく場所を「避難所」と呼び分けています。</p> <p>今年は新型コロナウイルスの関係上、密回避のためできる限り多くの施設を避難所として使えないか検討し、各自治会に対しても自治会館での避難所運営等についてご相談させていただきました。</p> <p>名称の類似については、ご指摘のとおり混同しやすいところがありますので、わかりやすく補完できる形での広報を検討していきたいと思います。(危機管理課)</p>
<p>これからは「公助」ではなく、「共助」を強化する必要があるが、実際に災害が起こり長期避難生活となった際、戦力となるのは中高生など若い世代である。中高生に「共助においては自分が主役である」という意識や郷土を愛する気持ちを養う教育をしてほしい。</p>	<p>防災士養成事業として、今年から各高校を回り、お話をさせていただいた結果、市内 30 名の高校生の方に今年度の防災士養成講座（12月予定）のお申し込みをいただきました。今後も継続して取り組むことで、未来ある子どもたちに防災意識や郷土を守り愛する心を育てていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>また、防災センターでは小中学生の防災教育として、社会科見学や防災学習を実施しております。そこで1つでも多くのことを学んでいただきたいと思いますという気持ちで、今後も取り組んでまいりますので、引き続きご協力のほどよろしく願いいたします。(危機管理課)</p>
<p>地震の死者数の想定が、危機管理課の説明とモニタールームでの説明とで数字が少し異なるのが気になった。</p> <p>新居浜市でも実際に地震が来た時に備えて、独自に地震の観測などの調査や研究等を行っているのか。</p>	<p>今回ご説明した被害想定の数値は、あくまでも南海トラフ巨大地震の被害想定ですが、モニタールームでのガイダンスの数値は、「想定死者数は、およそ 1,900 人」ということで、講義で説明した数字（新居浜市全体で 1,841 人）を大きく丸めたものです。</p> <p>新居浜市には大学等の研究機関もなく、施設・設備がないことから、市独自での調査や研究等は原則実施できておりません。被害想定等の調査研究については、基本的に国、県に担っていただいているところです。(危機管理課)</p>
<p>災害体験について、「ご家族等で体験ください」との説明があったが、予約等は必要か。手続きの方法は？</p>	<p>防災センターのパンフレットまたはホームページでご案内しているとおり、1日に体験できるグループ数に限りがありますので、原則として予約が必要です。</p> <p>本日は市政モニターによる施設見学ということで、通常とは違う時間に開始させていただきましたが、通常は1時間20分程度のコースで、①9:00～ ②10:30～ ③13:00～ ④15:00～のスタートになっています。まずはお電話で施設の予約状況をご確認のうえ、事前予約をしていただけたらと思います。(危機管理課)</p> <p>連絡先：新居浜市防災センター（☎65-1583） 予約受付時間：平日 8時30～17時15分</p>

(参加者アンケート)

市政モニター会議に参加いただいたモニターの皆さんに、感想やご意見をうかがい、今後の参考とするためにアンケートを実施しました。

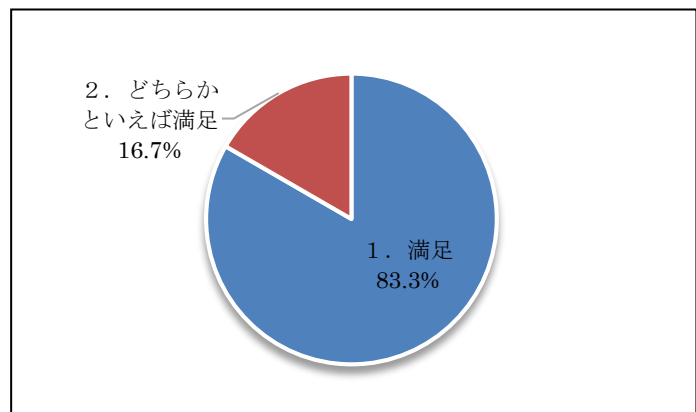
<アンケート概要>

調査対象者	第1回・第2回市政モニター会議参加者 34人
調査期間	会議実施日～令和2年12月4日(金)
調査方法	会議実施時にアンケート用紙を配布し、後日郵送で提出
回収数(率)	30人(88.2%)

<調査結果>

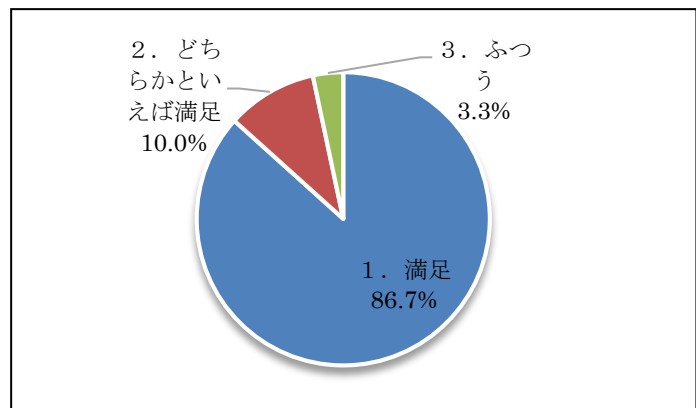
Q1. 今回の施設見学のリサーチや見学先の設定についてどう思いましたか。5段階の満足度でお答えください。(1つ選択)

1. 満足	25人
2. どちらかといえば満足	5人
3. ふつう	0人
4. どちらかといえば不満	0人
5. 不満	0人
合計	30人



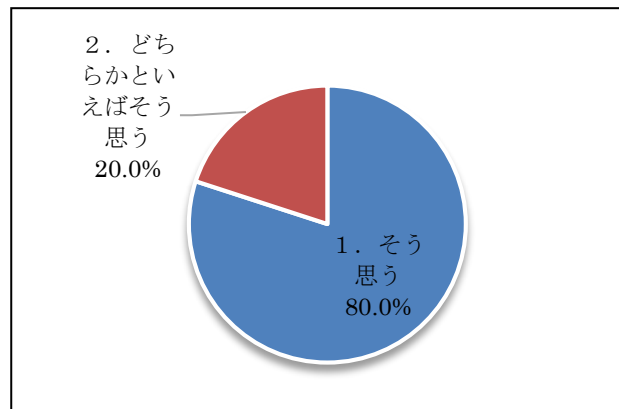
Q2. 今回の施設見学の内容や職員からの説明はいかがでしたか。5段階の満足度でお答えください。(1つ選択)

1. 満足	26人
2. どちらかといえば満足	3人
3. ふつう	1人
4. どちらかといえば不満	0人
5. 不満	0人
合計	30人



Q 3. 今回の施設見学に参加して、市の取り組みに対する理解や関心が高くなったと思いますか。(1つ選択)

1. そう思う	24人
2. どちらかといえばそう思う	6人
3. どちらかといえばそう思わない	0人
4. そう思わない	0人
合計	30人



Q 4. 今回の施設見学会に参加しての感想やご意見を自由に記入してください。(自由記入)

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

- ・素晴らしい設備、安心を感じました。
- ・新しい施設でとても気持ち良く、普段見ることができない所まで見学することができました。
- ・災害に対する最新の設備、取り組みに驚いた。市民のいざという時の安全、安心の確保をお願いします。
- ・改めて自助・共助の重要性や緊急持出品・備蓄品の再確認ができ、良かったと思います。
- ・大変立派な施設で驚きました。今後、これをうまく活用していただきたいと思います。見学会等も積極的に行い、特に若年層への防災意識の向上に資するようにお願いします。
- ・消火器の使い方、火災時の避難の仕方など実際に体験してみて、とても役に立ちました。防災に対する意識が高まりました。
- ・災害・事故等を想定しての擬似体験は、万一その場面に遭遇しても、直に応用できると思うので良かったです。
- ・煙避難体験で、内部が思っていたのと違っていたため、中で少し迷ってしまいました。本当の火事だったら、完全にアウトと思いました。
- ・煙避難体験が良かったです。視野が悪いく中進んでいくのが、あんなに不安で難しいとは思いませんでした。壁と非常灯が頼りでした。もしもの時のために、次は家族で訪れたいと思います。
- ・防災ラジオ、購入します。煙避難体験は、良い経験になりました。距離はそんなに長くないのかも知れませんが、真っ暗で周りが見えないと、とても長く移動しているように感じました。
- ・災害は風雨のある時に起こりやすいと思うので、風の強さの体験ができれば子どもたちも喜んで体験するのでは、と思いました。カップを着て、というのもいいかもしれません。
- ・東日本大震災を体験した者としては、体験コーナーの揺れの時間をもっと長くしたり、長周期振動もあればもっと実際に近付けられるのではないかと思います。
- ・担当課の方々の詳しい説明や災害体験で、貴重な研修となりました。市民の一人でも多くの方に、このような研修の機会があればよいと思いました。
- ・土石流の発生地区の説明はあったのですが、洪水発生の恐れがある地区について、もう少し詳しく説明があれば、もっと良かったと思います。平成16年の災害の例もありますので。

- ・南海トラフ地震では津波の高さ 3.4m だそうです、地元の海拔は確か 2m 位だと思います。非常に心配しています。
- ・危機管理課からの災害への備えについてのお話も、知らないことが多くありました。「新居浜いんぷお」のアプリは早速入れてみます。気になったのが、ご紹介の非常用トイレの薬品です。どこで販売されていますか？お土産等で施設の見学者に見本を配布していただけるとよいかも、と思いました。
- ・公助もありますが、何より私たちの命を守るための自助・共助を家族でしっかり話しておくことが大切だと痛感しました。
- ・公助の一環として、自助や共助を促し進めて行く支援活動をよろしくをお願いします。
- ・阪神淡路大震災の経験者としては、死者数の想定が少ないと感じた。また、自助・共助・公助の共助の部分の必要性の強調が弱く感じた。災害時に一番重要性を心から感じた部分が共助であったと災害時に実感している者としては、自助よりも共助と思っているからである。
- ・普段は見られないような場所まで案内していただき、貴重な体験ができました。防災センターでの体験で、災害の恐ろしさを改めて感じました。「備えあれば憂いなし」という言葉にもありますように、被災して慌てることのないよう、備えたいと思います。
- ・防災についての取り組みはもちろん大切です。自宅での準備を一応備えていたと思っていましたが、まだまだ甘かった、と置き場所や内容を確認し直しました。それでも、いざという時に自分がどれだけ対応できるかと言うと、それは別問題のような気がします。防災意識を高め維持していくためにも、今後も引き続き広報をお願いしたいと思います。
- ・大変立派な施設で驚きました。消防は最新機器で守られている感じがしました。煙体験は大変勉強になりました。家族で再度見学に来ようと思います。
- ・最新式の機器設備そしてシステムの活用で、市民の命を守るため日々活躍いただいていることを改めて認識した。
- ・立派な施設で情報収集やそれに対応する迅速な処置が整っており、職員の教育や訓練も行き届き、これが我々市民の生活を守ってくれているのがよくわかりました。
- ・新しくなった消防防災庁舎の内部を案内してもらい、大変勉強になりました。特に通信指令室では、緊急通報を受けると画面にピンポイントで地図が出るという話は、前々から聞いていましたが、自分の目で見ると大変実感がわきました。
- ・市民の命を守るために働かれている方々が、利便性を高めた働く環境を得ることは素晴らしいことだと思います。今回の見学で普段の災害等への危機管理への再認識となりました。災害時ドローン活用をされるのかお尋ねしたかったです。
- ・新庁舎は最近の技術を導入していて、市民にとって心強いものを感じました。来年度から女性消防職員が採用されるとのこと、災害時には同性の方の援助は心強いので、新居浜市民として安心できます。
- ・女性消防隊員が誕生するとういいですね。
- ・消防防災合同庁舎の施設、設備が最新の工夫が凝らされていることに驚き、感心させられました。小学生の遠足の際、消防車が上から見えたり、訓練が間近で見られるようにしてあるのも、とても良いと思います。中学・高校も含め、必ず社会科見学（職業体験にも）に入れていただけると良さそうです。
- ・消防自動車の性能等の説明があれば良かった。
- ・時間的なものもあるかもしれませんが、救命講習などもあれば良いかな、と思いました。
- ・全館わかりやすかった。
- ・説明時に声が少し聞き取りにくい点もありました。特に女性の声が聞き取りにくかった。もう少し大きな声がよいと思いました。

Q 5. 来年度以降の施設見学会で、設定したら良いと思うテーマや見学先があれば記入してください。(自由記入)

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

- ・端出場、東平地区の施設見学
- ・マイントピア別子、東平マチュピチュ等、市外の人に観光のアピールする所を見てみたい。
- ・ゆらぎの森等、別子地区はどうでしょう。
- ・広瀬歴史記念館、住友山田住宅
- ・上水道、下水道設備の管理維持や更新について
- ・上水道（飲料水）関係、汚水処理場関係
- ・市のごみ収集。搬入後の問題点や現状について
- ・ごみ処理場
- ・意外に市の施設を知らないなので、どちらでも解説していただけると新鮮です。議会とか見てみたい気がします。
- ・議会、市役所等を設定したらどうか？実際に、投票率の低さが市長選にも表れている。投票率が50%を下回る事態は問題と考える。
- ・コロナの状況を考えながらですが、他市との交流もあれば、どうでしょうか。
- ・コロナ禍の中で働く人々の健康が心配です。大人も子どもも、ストレスで自殺者が2倍とか。多忙にしている医療関係者が心配です。施設で働く人たちをテーマにしては。
- ・市政モニターに「ここは見学してほしい！」という施設はどこですか？

～ご協力、ありがとうございました～



©NPO 法人新居浜まちゅり隊